

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年12月28日

協議会名: 半田市地域公共交通会議

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C 評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C 評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
知多乗合(株)	半田市地区路線バスごんく「亀崎・有脇線」 日本福祉大学～亀崎駅～日本福祉大学	コロナ禍でバス利用者が減少する中、少しでも安全・安心にバス利用できるよう、対象車両内の抗菌・抗ウイルスコーティングを実施した。	A 計画どおり、市内を大きく南北に結ぶ基幹路線「半田・常滑線」「半田北部線」と各地域を結ぶ「亀崎・有脇線」の確保により、通勤や通院・お見舞いなどを中心に日々の暮らしに密着した、住民にとってなくてはならない地域交通の基盤維持を図ることができた。	B 令和3年9月末時点の平均利用者数は28人/日であり、目標と実績乖離の是正のため公共交通会議の協議に基づき再設定した令和2年度目標値71人を下回ったが、日々の普及・啓発に加え、R2年10月のイベントを活用した利用促進キャンペーンや同年11月の安全性向上のための車内の抗菌・抗ウイルス対策等の実施により、利用者の大幅な減少を食い止めることができたものと考えられる。引き続き、住民にとって必要不可欠な地域交通の基盤維持を図りながら、コロナ禍の外出自粛や生活様式の変化を踏まえた外出(利用)促進策を併せて実施する必要がある。	・引き続き、交通空白地域での交通手段確保のため、地域の实情に合わせ、定時定路線バス以外の形態も含めて検討し、導入する。 ・低調が続く路線等を中心に、具体的な利用方法を紹介するなどして、地域住民への普及・啓発を行い、さらなる利用促進を図る。 ・無料乗車キャンペーンなど乗車機会の拡大を目的とした企画を実施し、利用促進を図る。 ・バス利用の少ない若い世代を対象とした運賃改定(小学生無料)を実施し、バス利用の早期習慣化と将来的な利用増を図る。
知多乗合(株)	半田市地区路線バスごんく「半田中央線」 パワードーム半田～知多半田駅～新美南吉記念館	また、改編した路線を含む市内バス路線については、コロナ禍で積極的な外出(利用)促進が難しい中、出前講座や地域のイベント等を活用して普及・啓発を図った。	A 計画どおり、市内を大きく南北に結ぶ基幹路線「半田・常滑線」「半田北部線」と各地域を結ぶ「半田・中央線」の確保により、買物・飲食や通勤などを中心に日々の暮らしに密着した、住民にとってなくてはならない地域交通の基盤維持を図ることができた。	B 令和3年9月末時点の平均利用者数は88人/日であり、目標と実績乖離の是正のため公共交通会議の協議に基づき再設定した令和2年度目標値93人を下回ったが、日々の普及・啓発に加え、R2年10月のイベントを活用した利用促進キャンペーンや同年11月の安全性向上のための車内の抗菌・抗ウイルス対策等の実施により、利用者の大幅な減少を食い止めることができたものと考えられる。引き続き、住民にとって必要不可欠な地域交通の基盤維持を図りながら、コロナ禍の外出自粛や生活様式の変化を踏まえた外出(利用)促進策を併せて実施する必要がある。	・引き続き、交通空白地域での交通手段確保のため、地域の实情に合わせ、定時定路線バス以外の形態も含めて検討し、導入する。 ・無料乗車キャンペーンなど乗車機会の拡大を目的とした企画を実施し、利用促進を図る。 ・バス利用の少ない若い世代を対象とした運賃改定(小学生無料)を実施し、バス利用の早期習慣化と将来的な利用増を図る。
知多乗合(株)	半田市地区路線バスごんく「青山・成岩線」 君ヶ橋住宅～青山駅～君ヶ橋住宅		A 計画どおり、市内を大きく南北に結ぶ基幹路線「半田・常滑線」「半田北部線」と各地域を結ぶ「青山・成岩線」の確保により、通勤や買物・飲食などを中心に日々の暮らしに密着した、住民にとってなくてはならない地域交通の基盤維持を図ることができた。	B 令和3年9月末時点の平均利用者数は77人/日であり、目標と実績乖離の是正のため公共交通会議の協議に基づき再設定した令和2年度目標値92人を下回ったが、日々の普及・啓発に加え、R2年10月のイベントを活用した利用促進キャンペーンや同年11月の安全性向上のための車内の抗菌・抗ウイルス対策等の実施により、利用者の大幅な減少を食い止めることができたものと考えられる。引き続き、住民にとって必要不可欠な地域交通の基盤維持を図りながら、コロナ禍の外出自粛や生活様式の変化を踏まえた外出(利用)促進策を併せて実施する必要がある。	・引き続き、交通空白地域での交通手段確保のため、地域の实情に合わせ、定時定路線バス以外の形態も含めて検討し、導入する。 ・無料乗車キャンペーンなど乗車機会の拡大を目的とした企画を実施し、利用促進を図る。 ・バス利用の少ない若い世代を対象とした運賃改定(小学生無料)を実施し、バス利用の早期習慣化と将来的な利用増を図る。

5

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和3年12月28日

協議会名:	半田市地域公共交通会議
-------	-------------

評価対象事業名:	陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)
----------	---------------------------------

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>・半田市では、「おでかけ環境が充実した 住み続けたいまち 半田」を交通将来像として掲げ、以下の基本方針に沿って目標の実現を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①半田市の一体性の強化及び観光施設・イベントを回遊できる公共交通ネットワークの再編</li><li>②半田メインストリートにおける公共交通サービスの充実</li><li>③各生活圏のおでかけニーズに対応した公共交通サービスの確保</li><li>④関係者が連携・協働し公共交通を支え育む仕組みの構築</li></ul>
-----------------------------	---

## ＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

半田市（区町村）地域公共交通計画の評価等結果（令和2年10月～令和3年9月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
市内の路線バス利用者数1,100人/日（平成28年度） →2,700人/日（令和4年度） ※目標と実績乖離の是正のため公共交通会議の協議に基づき再設定した目標値 1,101人/日（令和2年度）	路線の大幅再編 交通空白地域の解消 バス環境の向上 地元バス会と協働した普及啓発	運行事業者の有する乗降データ及び実績値を用いて計測	842人 (R2年度実績)	新型コロナウイルス感染症等の影響により、前年より利用者減となった状況下においても、基幹路線（知多バス）、地区路線A（ごんくる）3線に続く地区路線B 3線を新規導入し、交通空白地域の解消と路線網全体の活性化を図ったことが、大幅な利用者減少を抑制したものと考える。 また、乗降調査や市民・利用者アンケートでは、利用者の満足度や公共交通で目的地に行くことのできる割合が目標値を上回る結果となった。これは、再編以降の路線改善や拡大、利用環境の向上、日々の利用促進策の取組成果と考える。 今後の課題は、残存する交通空白地域への取組であり、路線バス以外の公共交通の導入を含めた協議・検討を進めていく。	
公共交通利用者の満足度17%（平成28年度） →30%以上（令和4年度）		市民アンケートを実施し、集計	31% (R2.10実施 利用者アンケート)		
公共交通で目的地に行くことができる割合 51%（平成28年度） →67%（令和4年度）		市民アンケートを実施し、集計	75% (R2.11実施 市民アンケート)		

(記載に当たっての留意事項)

- ・ 本様式中、表題の「(〇年〇月～〇年〇月)」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「-」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。



(案)

中部様式

令和3年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価  
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

## 半田市地域公共交通会議

平成28年1月28日 設置

平成30年3月30日 半田市地域公共交通網形成計画策定  
(計画期間：平成30年4月～令和5年3月)

平成30年6月15日 フィーダー系統 確保維持計画策定等

令和4年1月〇〇日 令和3年度評価結果送付

直近の二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
<p>令和2年4月に改編したコミュニティバス、令和2年10月から新たに運行開始した岩滑小線について、利用状況等を分析し、今後の利用促進に繋げることを期待します。</p>	<p>改編したコミュニティバスは、コロナ禍で改編効果が見えづらい状況であったものの、結果として、大きな利用者増加には至らなかった。要因の一つとして、地域内を循環する移動ニーズよりも、市中心部や市外等への移動ニーズの方が多といった地域特性があるものと考えています。</p> <p>岩滑小線は、毎月地元バス会と結果を共有し、隔月程度の頻度で開催するメンバー全員が集まるバス会議にて課題分析と対応策をグループ討議し、次の活動に活かしています。</p> <p>(例、周知不足を課題と捉え、チラシ回覧・全戸配布、地域イベントへの周知、お得な乗車イベント等を実施しています。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改編後のコミュニティバスについて、バスの乗り方や行先などが分かるような広報（チラシ、回覧、出前講座）を実施するとともに、地区の住民とともに、新たな交通手段の導入を含めた見直しの方向性について協議を進めます。</li> <li>・引き続き、地元バス会と協働して、バスの乗り方や行先などが分かる広報やお得な乗車イベントを実施します。</li> <li>・一定期間の市コミュニティバス無料乗車キャンペーンを実施し、バスの乗車機会の拡大を図ります。</li> </ul>
<p>コミュニティバスが運行していない地区において、引き続き地域協議会で検討されるとともに、地域に合った交通手段が導入されることを期待します。</p>	<p>岩滑小線に続き、成岩東部線、瑞穂線の運行を開始し、公共交通の充実を図りました。</p> <p>また、有脇地区では、定時定路線以外の交通手段の導入に向け、協議を進めています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元バス会と協働した普及啓発事業、無料乗車キャンペーンを実施します。</li> <li>・有脇地区で、新たな公共交通手段の実証実験を行い、本格導入を目指します。</li> </ul>

### ■ 地域特性と背景

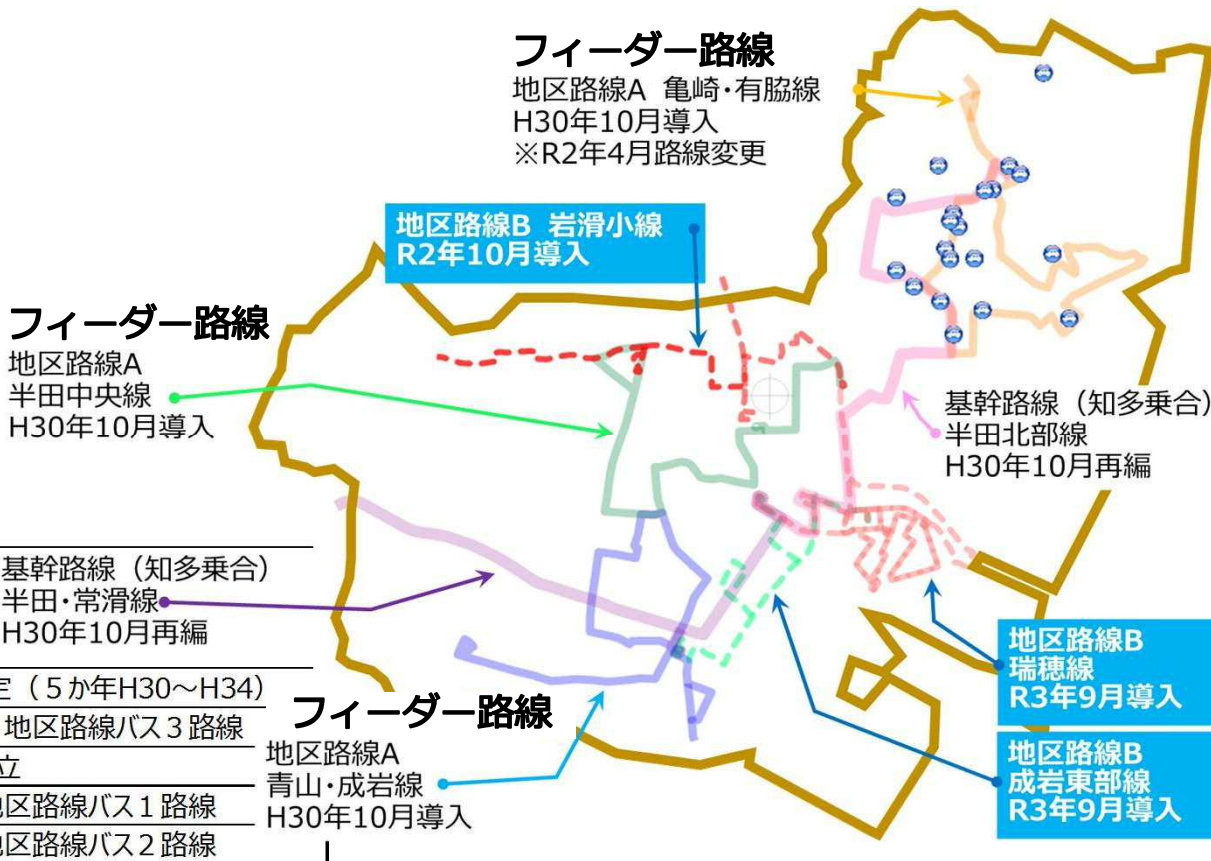
- ・人口は約11.7万人（令和2年国勢調査）、半田市人口ビジョンでは減少する見込み
- ・鉄道2本（JR武豊線・名鉄河和線）が市中心部を南北に縦断しており、高速道路が南北と西方面に走っており、半島という地理的条件下においても市域間移動の環境は比較的恵まれている。
- ・バス交通は民間バス自主路線に頼る状況が続いていたが、利用低下を背景に平成30年10月に大幅な再編を行い、知多乗合(株)6路線を2路線に統廃合し基幹路線とし、地域路線として市運営（運行委託）の3路線（フィーダー）を新規に導入。また、令和2年10月、令和3年9月には新たな地域路線を導入し、交通空白地域の解消を目指し公共交通環境の構築に取り組んでいる。

### ■ 方針・目標・期間

H30～R4 5か年

全体目標	「おでかけ環境が充実した 住み続けたいまち 半田」の実現
基本方針1	半田市の一体性の強化及び観光施設・イベントを回遊できる公共交通ネットワークの再編
基本方針2	半田メインストリートにおける公共交通サービスの充実
基本方針3	各生活圏のおでかけニーズに対応した公共交通サービスの確保
基本方針4	関係者が連携・協働し公共交通を支え育む仕組みの構築

年月	内容
平成28年 1月	半田市地域公共交通会議 設置
平成28年 5月	半田市地域公共交通条例 制定
平成30年 3月	半田市地域公共交通網形成計画 策定（5か年H30～H34）
平成30年10月	公共交通の再編 基幹路線バス2路線、地区路線バス3路線
令和元年	市内4地区で住民主導の「バス会」を設立
令和2年10月	バス会との協働による公共交通の拡大 地区路線バス1路線
令和3年9月	バス会との協働による公共交通の拡大 地区路線バス2路線



#### ■令和2年10月～令和3年9月の取組

- 交通空白地域の解消等に向けた住民主導のバス会の設立・運営支援・各種活動（4地区）
- 新たな地区路線の導入（3地区）  
【令和2年10月～、令和3年9月～（2地区）】
- 上記路線で使用できる  
お得な回数券の作成【令和2年10月～】



回数券100円券12枚綴（1,000円）



岩滑小線（ごん吉くんバス）



瑞穂（さくら）  
バス会議

- ・新たな公共交通手段の導入を要望する交通空白地域で「地区バス会」を設立し、導入の必要性や運行形態について同会を検討の場として活動。
- ・地区バス会の委員は有志で構成。アドバイザーに区長、地元議員などに参画してもらい、地域内での公平性を担保（行政は協働の立場で参画）。
- ・本地区バス会の制度は、住民主導により地元のニーズを反映した運行形態等を設定することのできる点が最大の特徴・魅力。
- ・導入までには、住民アンケート、住民説明会、試走、バス停予定箇所の土地所有者との交渉など多岐に渡る活動を行っている。
- ・令和2年10月～地区路線B岩滑小線、令和3年9月～地区路線B成岩東部線・瑞穂線が運行を開始。
- ・地区路線Bにおいて、車いすに乗ったまま乗降する必要がある方については、事前予約により、車いすに乗ったまま乗降することのできる車両を手配する制度設計としている。
- ・有脇地区では、バス会との協議の結果、路線バス以外の移動手段の導入を検討することが妥当との結論に至り、タクシーの活用について、検討・導入を進めている。
- ・令和3年12月現在、岩滑、成岩東部、瑞穂、有脇の4地区にてバス会が設立されており、バス路線等の導入後も、毎月の実績共有に加え、2か月に1回程度の頻度で会議を開催し、課題等の協議や対策等の実施を継続している。
- ・利用者向上のための日々の普及啓発（口コミ、チラシ、回覧、地元広報誌掲載、学校や老人会等各種団体、民生委員への広報）や乗車イベント企画（スピードくじ）を実施した。





## 4.計画の達成状況の評価指標とその結果 (Check)

### ■市内のバス利用者人数

種別	路線名	単位 (人/10月～翌9月)		
		利用者数		
		実績値		
		H30	R1	R2
地区 路線 A	亀崎・有脇線	11,705	10,507	10,275
	半田中央線	34,218	31,250	32,034
	青山・成岩線	33,364	29,885	28,134
合計		<b>79,287</b>	<b>71,642</b>	<b>70,443</b>

### 【結果・考察】

・市委託の地区路線バスは開始以降概ね堅調に推移するも、利用者が減少。通勤や買物・飲食を目的とする利用者が多く、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受ける形となった。  
 ・知多バス（半田北部線、半田・常滑線）も利用増で推移するも、空港や通勤・通学利用者が多く、市バス同様大きな影響を受け、利用者が減少した。

### 【対応方針】

・コロナ禍での利用者の（再）定着を目的とした乗車機会の拡大と、企画の実施

再編前 (～H30.9)	運行	路線名	単位 (人/年度)			単位 (人/日)						
			利用者数			利用者数				達成率		
			実績値			実績値						
			H30	R1	R2	H30	R1	R2	目標値	再設定		
						全体	内訳	全体	内訳		全体	内訳
再編前 (～H30.9)	知多乗合 (株)	上池線	29,524	-	-	697	161					
		有脇線	10,971	-	-		59					
		亀崎線	10,599	-	-		57					
		鴉根線	9,229	-	-		50					
		花園線	1,617	-	-		8					
		常滑線	66,246	-	-		362					
再編後 (H30.10～)	基幹 路線	知多乗合 (株)	半田北部線	104,104	245,769	144,905	572		671		397	
			半田・常滑線	69,706	115,290	92,345	383		315		253	
	地区 路線 A	市から委託 知多乗合 (株)	亀崎・有脇線	5,842	11,681	9,719	32		31		26	
			半田中央線	14,927	37,294	28,854	82		101		79	
			青山・成岩線	14,673	37,009	24,810	80	1,219	101	<b>842</b>	67	<b>1,101</b>
	地区 路線 B	R2.10～運行 市から委託 つばめ交通 (協組)	岩滑小線	-	-	2,500	-		-		20	
			R3.9～運行 市から委託	成岩東部線	-	-	-	-		-		-
		瑞穂線	-	-	-	-		-		-		
合計			337,438	447,043	<b>303,133</b>							

計画策定当初の目標値 (R4.2,700人/日) は、交通網再編前のバス利用状況アンケート結果を基にした数値で、すべてのバス路線で収支率25%超を達成しても届かない理想値であったため、R2の公共交通会議にて、実績との乖離是正について協議を行い再設定を行った。

#### 4.計画の達成状況の評価指標とその結果 (Check)

##### ■公共交通で目的地に行くことができる割合の増加

対象	12歳以上の市民3,000人（無作為）		
方法	郵送回収		
時期	R2.11.12～23		
回収数	1,220通		
目標とする指標	目標値 [R4]	現況値 [R2]	現況値 [H28]
公共交通で目的地に行くことができる割合	市平均 67%	市平均 74%	市平均 51%

対象	ごんくる3路線、知多バス2路線		
方法	車内での配布・郵送回収		
時期	R2.10.29～11.1		
回収数	727通		
目標とする指標	目標値 [R4]	現況値 [R2]	現況値 [H28]
公共交通利用者の満足度	30%以上	31%	17%

##### 【結果・考察】

- ・ R2.11に実施した市民アンケートでは、上記のとおり、公共交通で目的地に行くことができる割合が51%[H28]→74%[R2]、同時期実施のバス利用者アンケートでは、公共交通利用者の満足度が、17% [H28] →31% [R2] となり、R4目標値を上回る結果となった。これは、再編以降の路線改善や拡大、利用環境の向上、日々の利用促進策の取組の成果によるものと考えられる。
- ・ バスの運行自体の認知度は高まるも、最寄バス停や運行ルート等を把握している割合は高くない。また、バス利用者の8割が40代以上の年齢層となっている。引き続き、公共交通の関心を高め、移動手段の選択肢とするきっかけづくりが必要。

##### 【対応方針】

- ・ 地元バス会と協働した広報による、効果の高い普及・啓発活動の実施
- ・ バス利用の早期習慣化と将来的な利用増を目的としたバスの運賃改定
- ・ 交通空白地域における路線バス以外の交通手段を含めた協議・導入による公共交通の充実

課題	対応方針
<p>【利用促進】 コロナ禍での利用者の減少抑制、利用者増加の工夫</p>	<p>利用者の（再）定着を目的とした乗車機会の拡大企画として、一定期間の無料乗車キャンペーンを実施。新たな生活様式の中に公共交通バスを取り入れるきっかけづくりを行う。また、バス利用の少ない若い世代を対象とした運賃改定（小学生無料）を実施し、バス利用の早期習慣化と将来的な利用増を図る。【R4中】</p>
<p>【認知度・満足度向上】 拡大中の公共交通網の市民の認知度、満足度の向上</p>	<p>公共交通に関心を持ち、（継続）利用につながるような直接的なPRを行うため、地元バス会と協働し、バスの乗り方や運行ルートなど乗車前には不安な、知りたい情報に特化した広報や、お得な乗車キャンペーン（スピードくじ等）等を実施し、認知度、満足度の向上を図る。【R4以降継続実施】</p>
<p>【交通空白地域解消】 大幅再編の統廃合のなかで公共交通空白地域となったエリア、路線拡大後も空白地域となっているエリアの足の確保。</p>	<p>有脇地区においては、住民主導の地区バス会との協議に基づき、地域特性に合わせた、タクシーを活用した新たな公共交通施策を実施し、空白地域の解消を図る。【R4中】 他の地区においても、引き続き、バス会の運営支援を実施し、路線バス以外を含め、地域のニーズや特性に合った公共交通手段の確保を図る。【R4以降継続実施】</p>
<p>【既存路線の見直し】 低調により改善（R2.4）を図った亀崎・有脇線の再協議、改善</p>	<p>近隣の有脇地区にて実施予定のタクシーを活用した新たな公共交通施策の実績、課題等を考慮しつつ、亀崎地区の住民とともに今後の見直しの方向性について協議を始める。【R4以降】</p>